

あじさい 141号

令和元年度総会が開催されました！



7月6日（土）原爆資料館ホールにて令和元年度育成会総会が開催され、来賓、本人、会員、職員など合わせて300名ほどが出席しました。今年は長崎市育成会60周年を祝う年ということで「創立60周年記念」という横断幕が掲げられ、「親なきあと これからの育成会への期待」というテーマで、記念のシンポジウムが開催されました。

シンポジウムではグループホーム入居の4名の本人が発表を行い、親を亡くした悲しみや苦勞、そんな中での育成会と出会いと関わりなどについて語られました。会場では目をハンカチで押さえる人もおり、深く心を動かされたという声が多く上がりました。



給食委員会が発足しました



法人内のあじさいの家、ワークあじさい、陽香里工房の調理員と給食委員会担当夢工房みどりの山田施設長の計4名で組織された給食委員会が発足し、活動を始めました。



もくじ

- 令和元年度育成会総会開催
- 60年を振り返る④
- 給食委員会発足
- お知らせ

令和元年度定期総会開催

7月9日（土）13：00より、原爆資料館ホールにて、令和元年度定期総会が開催されました。テーマを「～手をつないで60年 新しい時を見つめて これからもずっと～」と題し、約300名の本人や会員、職員の参加がありました。今年は役員改選の年でもあり、理事長より第14期役員を紹介がありました。

理事長あいさつに続いて、寺田事務長より平成30年度事業報告等及び令和元年度事業計画の説明がありました。



今年は特に、南部のグループホームをスタートさせたいと頑張っています。また、7月よりケアホームさくらの短期入所棟(5床)がオープンしました。当法人内のショートステイは全部で12床となりました。

この総会で、育成会永遠のテーマ「親なきあと」のこと、育成会に期待することや望むことを当事者4人の方を中心にシンポジウムを行います。会場からも遠慮のない発言も期待しています。

親の会活動を始めて60年、法人化してサービスを作り出して25年。今後も本人ファーストを貫いていきたいと思えます。

親なき後、これからの育成会への期待

後半は60周年を記念してシンポジウムが行われ、『親なき後、これからの育成会への期待』をテーマに、育成会グループホームに入所された4名の本人が登壇し、親を亡くした時の思い、入所までのいきさつや葛藤、ホームでの暮らしぶりを発表されました。いんくるの神林副所長がコーディネーターを務められ、それぞれのお話の後質問をしながらさらに深めていかれました。4名のみなさんがそれぞれ、育成会からどのような支援を受け入所まで至ったかの経緯を説明され、会場からの質問にも堂々と答えられました。



山崎良さん（グループホーム六じぞう・さんらいず）

19歳のとき母が入院し、自立できるようにホームに入った。母はよく「辛いことがあったら空を見て。お母さんは見てるよ。」と言っていた。母が亡くなったときたくさん泣いたが、ホームのみんなや職員さんがついてくれたので安心できた。職場はワークあじさいからさんらいずの就労移行支援に移った。2年間で就労を目指して自立したい。育成会には結婚して夫婦で入ってもサポートしてくれるグループホームを作ってほしい。

田川春子さん（グループホーム十人町・陽香里工房）

小さいころ母は病気がちな兄の世話で大変そうで、自分は家族のことでいじめに遭い、学校を休みがちだった。県外にいた姉が亡くなり、兄も入院、母も高齢になり困っていたら母のヘルパーさんが市に相談してくれて育成会とつながり、そこから家族以外の人とかかわりが増えていった。兄が入所し引っ越して一人暮らしを始めたが、2年後母が亡くなり、そこからあまり外に出なくなった。陽香里やグループホームを勧められたものの気が進まなかったが、たくさんアドバイスをもらい思い切って利用し、空きが出たので入居となった。今は、ホームのみんなが私の家族だし、兄と私には後見人もついて安心している。





高橋直樹さん（グループホームなめし・一般就労）

一般就労したがうまくいかず福祉就労を経て一般就労し 20 年務めたが、その間父は亡くなり母が倒れ、介護のために退職。母が今年 3 月に亡くなってグループホームへ入居。現在は高齢者施設で掃除の仕事をしている。ホームでの生活は楽しいが一人暮らしをして自立したい。母もそれを望んでいると思うから。月に 2 回お寺や実家の仏壇を参り、仏壇の前で弁当を食べ昼寝をして帰っている。私が元気にしているから、両親もきっと喜んでくれていると思う。

中村浩さん（グループホームなめし・ワークあじさい）

鉄工所やコンクリート会社で働いていたが、体力が続かずにワークあじさいへ。その後製麺所へ就労し 15 年務めて今はワークあじさいに戻った。両親亡き後、兄夫婦と同居。一人暮らし希望だったが、結局ワークあじさいの友達もいたのでなめしホームへの入居を決めた。今の楽しみは一人旅や映画、ホームの皆で行くカラオケ。親が亡くなくても私たちの人生はまだまだ続く。だから前向きに頑張ったほうがいい。



会員定例会でも定期総会に会員の生の声を届けられるようにと「今後の育成会に望むこと」を話し合い、要望や質問が上がり、それぞれについて回答をいただきました。

Q；ケアプランセンターが無くなって 65 歳以上の方はどうなるの？

A；相談支援専門員が介護保険につなげている。65 歳以上の現会員の内 7 名が特養老人ホームに入所されている。63 歳で必ず介護認定を受けることになる。要支援 1 だと生活介護を週 4 回しか利用できない。残りは介護保険のデイサービスで補っている。

Q；グループホームとして空き家やマンションの活用できないか？

A；これまで 2 年おき程度でグループホームやケアホームを補助金で建ててきた。今後は空き家やマンションも考慮していきたい。現在も既にアパートなどでサテライト型として一人暮らしを実施している。

Q；ヘルパー不足への対応は？

A；休日のヘルパー不足に関しては、事業所職員で無理のない方を募りヘルパーとして対応している。また、費用は育成会負担で、職員にヘルパー資格取得を推奨している。

Q；職員に親がいると「親の思いが伝わりやすい」という安心感がある。今後も親を職員として入れて欲しい。

A；先日の渡部伸さんの「親なきあと」セミナーにたくさんの方がみえて関心の高さが窺えた。親はもちろん、福祉を共にしてくれる人が職員として来てくれることを願っている。ホームページでも求人情報を出しているのを見てほしい。

Q；職員育成や、働きやすい職場作りの工夫は？

A；各事業所では職員一人一人の研修計画を立てている。働き方改革として、年休取得や育児・介護休暇も取れる。職員の研修や労務管理については、これからもしっかりと頑張っていきたい。

Q；短期入所での休日の日中支援を充実させてほしい。

A；短期入所中にはヘルパー利用ができないので、日中支援専任の職員を置いてドライブや買い物に出かけたり、ケアホームの方と一緒に行事に参加してもらっている。

質疑応答

Q：グループホームの夜勤さんやアシスタントさんが日替わりで変わると聞いて親としては不安。また、職員の採用基準は？

A：労働基準法により、グループホームの夜勤者は16時間勤務となり、1度入ると次回は3日後となる。日替わりで人が変わるように見えるのはシフトのため。グループホームで7人の正規職員と60人の非常勤職員がいるので安心してほしい。未経験者はあじさいの家で2か月間の職員によるマンツーマン指導を受けてもらっている。夜勤に関しても別枠で研修がある。現職員の紹介で入ってくる方も多い。

Q：休日の昼食を実家に帰ることなく、グループホームで食べたい。

A：一緒に昼食購入に行くなどできるだけ応えていきたい。

Q：南部のグループホーム建設の確約がほしい。

A：ひとつの候補地がほどなく正式な答えがある予定。他にも候補地が挙がっている。実現に向けて頑張る。

質疑応答のコーナーでもたくさんの質問がありました。紙面の都合上全て載せることができませんでした。来年の総会にはさらにたくさんの方に来ていただけるような内容にしたいと思います。ぜひ足をお運びいただき、ご意見をお聞かせください。



今年もさんらいずのお菓子、ワークあじさいの野菜や花の苗などの販売が行われました。

総会の進行はセンター事務局でお仕事されている山口小百合さんでした。



アンケートより「感想と要望」

- ・本人の発表に心を打たれ涙が出た。親なきあとの子どもがどう感じどう過ごしていけばいいのか考えさせられた。
- ・本人が悩みながら過ごしてきたこと、そういう時育成会に相談できたことで安心につながったことがとてもよかったし、これからもそうであってほしい。
- ・シンポジウムの進行役が聞いている側にも分かりやすい手法で進行されていたのがよかった。
- ・育成会の役割がますます重要になってきていると思う。
- ・シンポジウム発表者が今幸せに暮らしていたので嬉しかった。わが子は重度なので関係ないと思ったが、重度の人の話を大平施設長がされたのでありがたかった。
- ・工賃をもっと上げてほしい。
- ・育成会が頼りになる会になり嬉しい。
- ・質疑応答の時間をもっと欲しかった。
- ・南部のグループホームも頑張ってもらいたいし、東部にも建ててほしい。
- ・「親なきあと」育成会がどう動くのか、具体的な話がもっと欲しかった。



育成会は60周年!

60年を
振り返る④

育成会の60年を振り返る企画をシリーズでお届けしていますが、今回は育成会が障害のある人たちのためにやってきた活動を振り返ってみましょう。長崎市育成会は前身である「長崎県手をつなぐ親の会」長崎支部からスタートし、県の一支部としてではなくもっと主体性を持った活発な運動を展開しようという声から「長崎市手をつなぐ親の会」が誕生しました。そして当時の会員の情熱が様々な制度や施設など生み出してきました。行政への陳情や鉛筆販売や街頭募金での資金集め、会員勧誘など40周年の記念誌の座談会では当時の苦労が語られています。その後も継続してお茶、ラーメン、コーヒー、テレホンカードを販売したり、お母さんたちがクッキーを焼いて販売したり、中島川まつりでバザーをして資金を集めながら、独自の活動を広げていきました。

あじさい作業所

他の地域でできていた作業所を長崎市でもつくろうと模索していた頃、新聞に載っていた袋折りの内職の仕事を作業所の仕事として出来ないかと相談に行ったのが始まりでした。昭和53年にあじさい福祉作業所ができると訓練生(利用者)も増え、次々に第2～第4作業所が開設されました。そのたびに場所探しに大変苦労され、場所も何度も変わり、福祉センターが使えるようになって日替わりで部屋を割り当てられることもあったようです。平成9年には第5作業所(現在のさんらいず)が開設されました。開所当時から親が無料奉仕、手弁当で支援をしていましたが、補助金がついて専任の指導員を配置できるようになり、平成8年には親たちによる指導が全面的になくなりました。現在は5つの日中事業所を運営していますが、全てはこのあじさい作業所が始まりです。

生活ヘルプ

平成6年よそで始まったガイドヘルプ事業を参考に、「障害者の地位での生活全般を支える」という意味から、長崎市育成会では生活ヘルプ事業と言う名称でスタートしました。外出の付き添いや見守り、親のレスパイトが目的で始められ、全ては利用者負担でしたが、着々と利用者が増えていきました。そしてその実績が認められ、平成10年には長崎市より長崎市知的障害者ガイドヘルプ事業の委託を受け、現在のようなヘルパーの派遣事業へと進化しました。

あじさい学級

平成元年、作業所に入れない重度の障害のある子どもたちに対し、適切な訓練・指導を行う場を設ける必要があるということで育成会が重度対策協議会を設置して検討し、訓練のグループが設置されました。利用者5名を保護者5名で工夫しながら訓練に当たっていましたが、平成10年には所属の利用者を第1～第4作業所に分散して編入し、療育中心の指導から作業所の活動にも参加する時間を設け、社会の一員としての認識や、作業所の利用者との交流を図るようになりました。

サマーフレンドクラス

あじさい20号(平成10年)には小中学生を対象にした夏休み中のグループ活動のお知らせが掲載されています。「お母さんとだけ過ごす夏休み、それでいいのかな？」とあり、子どもたちが《集まる場所》でなかまと出会う夏休みを育成会で考えてみましたと書かれています。結局この活動が認められ、平成18年には長崎市より障害のある小中高生を対象にしたタイムケアの事業を委託され事業をスタートさせました。

長崎市育成会では現在多岐にわたる事業を展開していますが、私たちが利用している様々な事業は先人たちがゼロからスタートして苦

労して手に入れたものだったということが改めて分かりました。当時も現在もわが子を思う親の愛情に何ら変わりはないはずです。障害のある人たちの幸せを求めて熱く活動を続けていきたいと思います。

給食委員会が発足しました！

今年度4月より給食を提供している4つの事業所あじさいの家、ワークあじさい、陽香里工房の調理員の代表と夢工房みどりの施設長4名で給食委員会が組織され動き出しました。栄養管理、給食管理、安全衛生管理、サービス向上に関する課題検討を中心に行い、運営の適正化を図ることを目的とし、月1回開催されています。これまでの委員会では目的の周知や各事業所の厨房の視察などを行ったそうです。

夢工房みどりの山田施設長は「給食も支援のひとつです。単に食べればいいというものではなく、1日の3食のうちのひとつですが、しっかりと栄養を取ってもらいたいし、おいしいものを提供したい。今後は給食に関する文書や記録の見直しや各事業所の課題を持ち寄って話し合いながら、『安全においしく食べてもらう』ことを目標に活動していきたいと話されていました。給食に関する書類を見せていただきましたが、検収表、検食簿、食品の加熱・あえ物記録簿（温度管理表）、作業動線、作業工程、衛生安全チェック表など、たくさんの種類があり、安全のために様々なことに気を配りながら調理しなければいけないことが分かりました。

夢工房みどりでは給食は外注されており、運ばれてきた給食をみどりで配膳され提供されています。他の3事業所では1食250円の予算で調理されており、やりくりにご苦労しながらおいしいものを提供されています。



陽香里工房給食委員 藤本規子さん（調理員）のお話
3名で調理をしています。みなさん、食事の時間をとても楽しみにされているので、献立は同じものがつながらないよう、見た目、栄養バランスに気を付けて食欲をそそるようなものを心がけています。ご家庭の希望や体重管理、持病などを配慮しながら必要に応じて量や刻み方などを決めて提供しています。

陽香里の取材した日の給食は月に1～2回あるというパンの日。ハンバーグやレタス、トマトを挟んで食べてもOK。スープにポテトと野菜ジュースもついていました。

壁には給食について分かりやすく伝えるために、絵や写真を使った藤本さん手作りの様々な情報が貼られていました。



あじさいの家のこの日の昼食はゆで豚のごまだれかけと筍と厚揚げの煮物、具たくさんの味噌汁でした。

「異物やほりこりが入るのでは…」と気にされる方がいたり、刻み食は乾燥しやすいという理由から、ふたをしたもの、食べやすくするため汁物を具と汁に分けられたりしたものもありました。誕生月の方は、その月にリクエストができるようになっており、メニュー表には〇〇さんリクエストと書かれたメニューが並んでいました。

あじさいの家給食委員 松本靖子さん（調理員）のお話

3名で約80食の調理から配膳までしています。利用者さんがおいしく安全に食べられるよう衛生面には特に神経を使います。利用者に合わせて、刻み食やとろみ食にしたり、食べやすいよう一つの料理を複数の食器に分けて対応することもあります。月1回のバイキングの日や選択メニューの日もあり、みなさんに喜んでもらいたいと思っています。



あじさいの家の厨房

ワークあじさい給食委員 島京子さん（調理員）のお話

3名で調理をしています。温かいもの、旬のもの、たくさんの野菜を食べてもらえるよう心がけています。盛り具合や食べる部位（端が好き）にこだわりがある人、アレルギーや好みなど、個々に応じて提供しています。月に1回最低ひとつは新メニューを入れています。毎月の誕生会では誕生月の人にリクエストをとっていつもより少し豪華な食事を出しています。



ワークあじさいのこの日のメニューは、白身魚のホイル焼きと野菜の付け合わせ、ジャガイモの煮物、手作りのデザートはりんごのコンポートでした。



ワークあじさいの給食タイム



夢工房みどりではこれまで給食はありませんでしたが、大橋転居を機に外注して給食の提供が始まりました。

この日のメニューは豚ひき肉のコーン団子、野菜のかき揚げ、油揚げとなすの味噌汁でした。



さんらいずの昼食タイム

さんらいずには給食はありませんので、利用者のみなさんはお昼になるとお弁当を買いに出かけたり、外食したり、持参したお弁当を食べたりと、思い思いのスタイルでランチタイムを楽しんでいます。

給食のときのみなさんの表情を見てみると、とても楽しみにされているのが伝わってきます。調理員のみなさんは栄養のバランス、彩り、カロリー（パソコンソフトを使ってカロリー計算）

などにとっても気を使いながら、利用者さんにおいしく楽しく食べてもらえるよう日々工夫をされています。また、事業所の給食委員会と連携し、利用者の好みやリクエストなども取り入れながらメニューを決められていました。自分の事業所以外の厨房を見てとても勉強になったという声もあり、これまでは、単独で取り組んでいた給食に関する様々なことが、育成会の給食委員会ができたことによって連携して課題に取り組めるようになり、各事業所の給食がさらに充実するに違いないと感じました。

おしらせ

習字

日時: 第4土曜日

時間: 午後1時~

場所: ハートセンター社会適応訓練室

会費: 1回 500円

社会福祉法人

長崎市手をつなぐ育成会 広報部

長崎市大橋町 19-19

文教カテリーナ1F

Tel: 095-845-5677

E-mail: tewotunagu@hi.enjoy.ne.jp

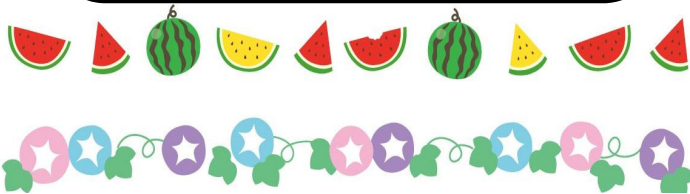


フラワーアレンジメント

日時: 第2・第4土曜日 午前10:30~

場所: ハートセンター5F 社会適応訓練室

会費: 1回1300円



お楽しみ倶楽部

日時: 8月18日(日) 13時~15時

内容: カラオケ

* 毎回参加費300円を翌月に請求させていただきます。

また、8月は別途カラオケ代も請求させていただきます。

* 人数把握のために必ずお申し込みをお願いします。お申し込み・お問い合わせはハートセンター事務局まで。 ☎: 847-1290

※ 計画は変更されることがありますので確認をしてから参加してください。

日時: 9月15日(日) 13時~15時

内容: 風船バレー

定例会

日時: 8月22日(木) 10時~12時

大橋生活支援センター会議室

NHKで放映された「親なきあと わが子は...~家族の願い~」を視聴して話し合しましょう。

令和元年度 第44回育成会運動会

と き: 9月14日(土) 9:30~15:30

ところ: 県立体育館(アリーナかぶとがに) 油木町7-1 ☎095-843-6521

今年は育成会60周年を記念してリニューアルした競技やお昼休みには障害者スポーツの体験コーナーもありますよ!

お申し込み・お問い合わせはハートセンター事務局まで ☎: 847-1290

またはタイムケア・啓発事務局まで ☎: 845-5677

申し込み締め切りは8月26日(月)まで!!

